

死者の書

チベット 17世紀頃書写

死後の世界への道先案内

臨終を迎えた人の枕元で、死後に見る光景やそこでの対処法を説き聞かせ、悟りへと導く経典です。チベット語の原題は「バルド・トエ・ドル」で、「死後49日間にわたる死と再生との中間期（バルド）に、正しい仏教の教えを聞く（トエ）ことで、解脱（ドル）する」、という意味です。1927年に英訳され、スイスのユング博士が心理学の観点から解説を付したことで注目され、その後多くの西洋人の死生観に影響を与えました。経文は、紺色に染め紙に金銀粉を溶いた顔料で筆写されています。



Tibetan Book of the Dead, transcribed in c. 9th century

This sūtra examines life after death and gives instructions for the spiritual enlightenment of deceased persons. This sūtra was first translated into English in 1927 and was put under the spotlight by Carl Jung, a widely read Swiss psychiatrist. Jung analyzed this sūtra psychoanalytically and his interpretation altered the existential views of many Westerners. This sūtra is transcribed in gold-silver paint on deep-blue paper.



死者の書

死後の世界への道先案内人

死者の書って、なんだろう？

★枕経(まくらきょう)って知ってる？

⇒日本の仏教では、人が亡くなったときにその枕元でお坊さんが読経(どきょう)することがありますね。このときによまれるのが枕経です。

★チベットの枕経

⇒この「死者の書」は、チベットの枕経といえます

★何が書いてある？

⇒死後に見る光景(こうけい)やそこではどうすればよいかについて書かれています。

★読み方は？

⇒左から右へと読みます。



どっちから読むのかな？
どうやってめくるのかな？

